



須留が峰

令和5年度
No.24

HPアドレス <http://yabuboard.ed.jp/yabu-jhs/>



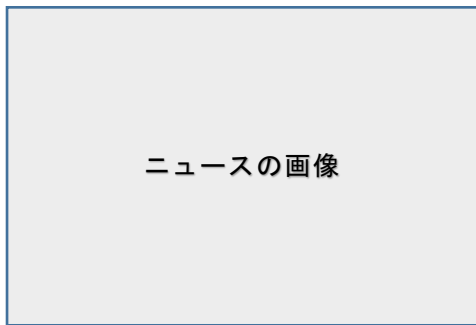
令和6年1月23日 発行



3学期が始まって

3学期始業式を行った1月9日は火曜日でした。したがって、3学期の第一週は火曜日始まりの4日間でした。先週は授業日が初めて5日間にわたり、生徒たちの冬休み気分もすっかりと抜けたことと思います。

能登半島地震の被災状況が、連日、新聞やニュース等で報道されています。過日の13日(土)と14日(日)に全国各地の会場で実施された「大学入学共通テスト」に向けたニュースの中では、今回の地震により避難所で生活している受験生が懸命に勉強している姿が映っていました。「地震を言い訳にせず、力を出し切りたい」「災害に負けたくない。真っ正面から試験に挑んで結果を残したい」と話すその姿勢に感動すると同時に、「がんばれ！」と声を出してエールを送っている自分がいました。



ニュースの画像

また、先週17日(水)のニュースでは、輪島市と珠洲市、能登町の中学生が親元を離れて集団避難する様子が映っていました。集団避難への参加を決断した生徒、そのまま親元で生活することを決断した生徒、そのどちらの生徒も不安やさみしさなど様々な思いを抱えながらの決断であったと思います。

<中学生の集団避難のニュース>

17日(水)には、阪神淡路大震災の発生から29年目を迎えました。本校においても、地震を想定した避難訓練を実施するとともに、防災集会では、養父市役所から坂本 龍二 危機管理監をお招きして防災意識の高揚に向けた講義をしていただきました。災害現場での坂本さんのこれまでの経験に基づくお話には、時折、胸につまる場面もありました。

人は非常事態が起こっても、それを正常の範囲内としてとらえる傾向があり、それを「正常性バイアス」というそうです。心を平静に保とうとする働きとしては有効ですが、その傾向が行き過ぎると、警報が発表されるなど本当に危険な状況であっても、それを異常と認識せず、避難などの対応が遅れてしまう場合があるため、普段から家族で市のハザードマップを確認したり、避難指示等が出された時の対応について話し合ったりしておいてほしいと話されました。さらに、今回の災害についても「他人事と思わず、自分事としてとらえて日々生活を送ってほしい」と話されました。



<講義される 坂本 危機管理監>

今回の坂本さんの講義を通して、前述の受験生や中学生の姿を、単にテレビやスマホの画面の向こう側の出来事(他人事)としてとらえるのではなく、同じ年代の者だからこそ、「自分ならどう行動するのか。どう行動していただろうか。」と自分事としてとらえ、改めて防災意識を高めながら、自分自身の日々の生活を律し、生き方や考え方を整理していくことの大切さを教えていただいたように思います。

あたりまえのようなこの日常に「ありがたさ」を感じながら、今日の今できる「あたりまえのこと」を丁寧に淡々とやり遂げていく、そんな心持ちで毎日を送っていこうと意を決した、例年と

「To Be a Good School」(良い学校をつくろう)

はまた異なる1月17日になりました。

ここで、3年生の〇〇〇〇君の作文を紹介します。この作文は、今年度の「第57回小・中学生作文・詩集『但馬の子ども』」において特選になり、但馬文教府において表彰していただいたものです。家業の梨づくりを通して培った農業への愛情と、丹念な作業から得た自身の信念が力強く大らかな筆致で書き綴られています。紙面の関係で、作文の冒頭と最後の部分だけの紹介ではありますが、「あたりまえのことを積み重ねていく努力」についての〇〇君の心意気を強く感じます。

「梨と共に生きる」

僕の一家の代名詞といえば、世間で広く親しまれている「吉井農園の梨」であろう。両親を軸として、祖父と祖母、そして僕と弟も手伝い、一家総出で梨づくりに精を出している。

〈中略〉

僕は、梨づくりを続けてきた祖父母や両親が好きだ。そして、力を合わせて農業を続けている我が家を誇りに思っている。この農業に対する愛情は、幼い頃から家業を手伝う中で育ってきた気持ちだと思う。

もちろん農業は、気候変動や天候の影響をまともに受けてしまう。自然と上手く付き合っていくかねばならないという宿命を背負っており、並外れた苦労が伴うという現実がある。しかし、その苦労を乗り越えた先にある景色にはすばらしい輝きがあることも、僕は知っている。

将来僕は、できれば農業を継ぎたいと思っている。しかし、たとえ違う職業に就いたとしても、我が家の梨づくりを通して得た「心を込めて続けた努力は、いつか大きな実を結ぶ」という信念は、持ち続けたい。そして、それを糧にして自らの道を切り拓いていこうと思う。

3学期始業式で話した「ABC + DE」を毎日の生活のベースにおくことにより、自分の「強さ」をしなやかに高めていってほしいと願っています。

2年生 国語科

芸術文化観光専門職大学の平田知之先生を講師に迎えて、演劇的な手法を生かして、物語の読みを深める特別授業（国語科）を全学年で行っています。今年度のトリは、2年生が果たしてくれました。物語は、あの「走れメロス」（太宰 治）です。

まずは
アイスブレイキング

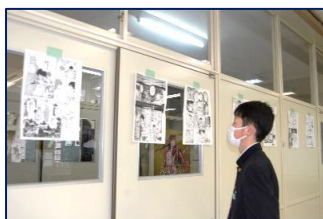


資料を見て、黙考？

劇化に向けて協議中



さあ！ 発表！
どのグループも、
名演技でした！



「進路懇談会」を通して

18日(木)と19日(金)の2日にわたり、3年生の「進路懇談会」を行いました。3年生の保護者の皆様におかれては、ご多用の中、12月の「期末保護者会」に引き続き、お時間を割いていただき、ありがとうございました。

2年生にとっては1年後、1年生にとっては2年後に迎えるこの時期。まだ先のことと思っているかもしれませんが、この時期は、あっという間に目の前に立ち現れてきます。

ただ漫然と「この時期」を迎えるのではなく、どう迎えるのかは、今後における重要なポイントです。やはりここでも、普段の生活や学習の積み重ねが問われることになります。

自分たちが3年生になり、「この時期」を迎えた時の姿をイメージして、今しなければならないことやできることにきちんと取り組んでいきたいですね。

注意 全国的に新型コロナウイルス感染症が広がっています。三密を避ける、こまめに換気する、必要に応じてマスクを着用するなど、基本的な感染防止対策にご協力願います。特に3年生は、これから大切な時期に入ります。体調管理には十分に留意していきましょう。

「ABC + DE」はすべてのベース